

SONORA XJ

コストを削減し 印刷品質を安定化

株式会社山川印刷所



TRENDSETTER の入れ替えにあわせて、SONORA XJ プロセスフリープレートを全面採用。現像処理工程をなくして月平均 5～6 万円のコストを削減。さらに印刷品質も安定化し、前準備時間は最大 10 分短縮。

福島の復興と成長を支える老舗ブランド企業

福島市に本社を構える株式会社山川印刷所は、2017 年 8 月に創業 80 周年を迎える老舗印刷会社である。地元福島での知名度は高く、長年にわたる豊富な実績と経験を背景に、官公庁から民間企業まで数多くの顧客と確かな信頼関係を構築している。同社のモットーは「お客様のお役立ち隊」。高品質な印刷サービスから、販促イベント・キャンペーンの企画、Web サイト・動画制作まで、顧客の課題解決に必要な多彩なサービスをワンストップで提供している。代表取締役社長の立花志明氏は、自社が目指す方向性について「印刷サービスにこだわることなく、お客様の目的を理解して適切なソリューションを提案で

「SONORA XJ の改良版では、絵柄が格段に見やすくなり、検版の不安は払拭されました」

きる企業」だと語る。実際、震災以降、社内改革が進み、お客様には「印刷会社なのにそんなこともできるの!」と驚かれるまでに成長してきたという。今はまだ道半ばと謙遜するが、地元福島の復興と成長を支えながら、同社もまた大きく飛躍しようとしている。



代表取締役社長 立花 志明 氏



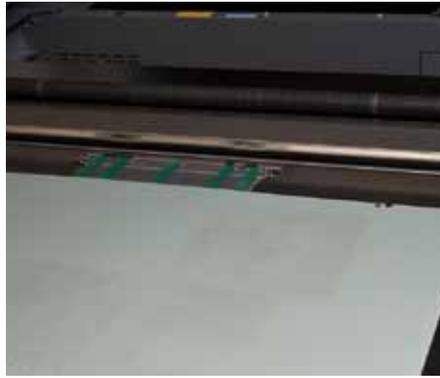
生産部 部長 佐藤 孝志 氏



企画制作部 部長 大槻 純一 氏



菊全判 8 色両面印刷機を擁する印刷部門



TRENDSETTER のインラインパンチシステム



STACCATO 20 による高精細印刷に対応

コダックへの絶大な信頼から SONORA XJ を採用

同社の製版部門では 2002 年に KODAK PRINERGY と KODAK TRENDSETTER による CTP ワークフローを導入してフィルムレス化を図って以来、刷版もコダックの現像有り版を使用してきた。KODAK STACCATO スクリーニングによる高精細印刷もいち早く確立し、同業他社との差別化も図ってきた。2011 年の東日本大震災では印刷機が止まるなど大きな被害を受けた同社だが、TRENDSETTER は震度 5 弱の揺れにも故障することなく、出力を続けたという。こうしたコダック製品に対する絶大な信頼感、さらにはカラーマネジメントをはじめとする充実したサポート体制を評価して、今回の機器更新に際してもコダックの最新機種が選ばれた。2016 年 11 月には、新しい TRENDSETTER Q800 プレートセッターが同社に導入され、これにあわせて刷版も従来の現像有り版から完全無処理版の KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートへと全面的に変更した。目的は現像処理工程をゼロにして、コスト削減と環境対策を一気に推し進めること。機種選定は現場に一任しているという立花社長に代わって、経緯を説明してくれたのは企画制作部部長の大槻純一氏だ。

「CTP を導入しても現像処理というアナログ工程が残ることに以前から不満がありました。品質に影響を与えるだけでなくコスト増にもつながります。そのため SONORA XJ が発表されたときは、すぐにテストを実施しましたが、検版に不安があったので一度は採用を見送りました。しかし翌年の改良版では絵柄が格段に見やすくなり不安は払拭されました。業界での評判が高く、コダックへの長年の信頼感もあって、新しい CTP の導入にあわせて全面採用に踏み切りました」

SONORA XJ の導入によって、現像液の購入費用、廃液処理費用、水道代、電気代がゼロになり、これまで 2 週間に 1 回行っていた自動現像機の定期的なメンテナンスの手間と時間も一切不要になり、管理が劇的に楽になったという。廃液がゼロになったことで作業環境の改善にもつながった。同社のコスト削減効果は月平均 4 ～ 5 万円、年間では 50 ～ 60 万円にも達する。万一のために自動現像機は置き続けていたが、一度も使うことはなかったようだ。

コスト削減だけでなく、印刷品質の安定化にも貢献

生産部部長の佐藤孝志氏は印刷現場の視点から SONORA XJ を導入した理由を次のように話してくれた。

「SONORA XJ を採用した最大の理由は、今までの刷版と変わらず普通に通に刷れるということでした。従来の現像有り版とドットゲインやトラッ

ピングが大きく変わらず、同じような感覚でリピートの仕事も安定して印刷できたことから、問題なく採用が決まりました」

さらに実際の仕事で使っただけで SONORA XJ の安定感には驚かされた佐藤部長は続けている。

「今までよりも湿し水が 5% 近く絞れるようになり、びっくりしました。網点もシャープできれいなので、印刷品質が安定しています。基準濃度に達してからは変動がほとんどなく、ロングランの仕事も安心です。抜き取りチェックの手間と時間が軽減でき、色見台にしがみついている必要もありません。オペレータは負担が少なくなったと喜んでます。TRENDSETTER のインラインパンチシステムとの相乗効果もあって、前準備時間は 5 ～ 10 分ほど短縮していますし、スピードだけでなく印刷の見当精度もかなり良くなりました」

同社の印刷部門では菊全判 8 色両面印刷機を中心に、サイズの異なる多種多様な印刷設備を擁している。このため複数のパンチ仕様に対応する TRENDSETTER のインラインパンチシステムは、前準備時間の短縮と印刷品質の安定化に大きく貢献した。出力版数は月平均 1,200 ～ 1,300 版で、すべての印刷機で SONORA XJ を使用している。通し枚数は平均 2 ～ 3 万枚だが、7 万通しのロングランでも抜群に安定していたと佐藤部長は太鼓判を押す。多角化する顧客ニーズに応えるためには、印刷ビジネスだけにこだわり続けることはできない。お客様の課題解決を図るコンサルティング集団へと生まれ変わるためには、印刷以外のサービスメニューの構築が必須である。それでも立花社長は「お客様が印刷物を選択するのであれば、他社に負けない製品を提供したい。そのための最良の選択肢がコダックの SONORA XJ だった」と印刷への熱い思いを語ってくれた。コダックも絶え間ない技術革新を続けることで、その思いに応えてゆこうとしている。



株式会社山川印刷所

代表取締役社長：立花 志明

〒960-2153 福島県福島市庄野字清水尻 1-10

(福島西工業団地内)

TEL：024-593-2221 (代)

FAX：024-593-5455

<http://www.yamakawa-p.co.jp/>

この印刷物は、KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートを使用して印刷しています。

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-06

